

# AstraZeneca PLC

## 2006年第2四半期・上半期業績

「第2四半期業績は堅調、売上10%増、1株当り利益41%増

「通年財務目標達成に向けて順調に推移」

### ファイナンシャルハイライト

グループ	第2四半期	第2四半期	前年 同期比 %	恒常 為替 %	上半期	上半期	前年 同期比 %	恒常 為替 %
	2006 100万ドル	2005 100万ドル			2006 100万ドル	2005 100万ドル		
売上高	6,625	6,132	+8	+10	12,805	11,875	+8	+11
営業利益	2,131*	1,718	+24	+30	4,107*	3,171	+30	+31
税引前利益	2,209	1,749	+26	+31	4,253	3,235	+31	+33
1株当り利益	\$1.02**	\$0.75	+36	+41	\$1.92**	\$1.38	+39	+41

伸び率は恒常為替レート (CER) ベース

\* Abraxis Bioscience社への米国麻酔および鎮痛剤製品の売却に伴うその他収入1億900万ドルを含む

\*\* 同売却に伴う\$0.05を含む

- 第2四半期の売上は10%増の66億2,500万ドル、営業利益は、売却益1億900万ドルを含む、30%増の21億3,100万ドルでした。実質営業利益（売却益を除く）は23%増でした。
- 上半期の売上は11%増の128億500万ドルでした。上半期の営業利益は31%増（実質28%増）の41億700万ドルでした。上半期の営業利益率は32.1%でした。
- 5つの主力成長製品の上半期の売上は堅調でした：Nexium™（11%増）、セロクエル™（29%増）、クレストール™（48%増）、アリミデックス™（34%増）、Symbicort™（24%増）
- 上半期のフリーキャッシュフローは29億2,200万ドル。株の買い戻し額は総額16億2,700万ドル。
- 取締役会は、第1回中間配当を29%引き上げ、0.49ドルとすることを勧告しました。
- Cambridge Antibody Technology Group plc (CAT) に対するオファーは6月22日“無条件”と宣言されました。6月30日現在、当社はCAT株式の95%を超える株式に関し合法的な受諾を取得あるいは受理しました。残りのCAT株式の強制取得を実施中です。
- 7月21日、米国FDAはSymbicort™を12歳以上の喘息患者における維持療法の治療薬として承認しました。
- 7月17日、米国でセロクエル™の1日1回除放製剤を統合失調症治療の適応症で承認申請しました。EUにおける申請は本年末迄に行う予定です。
- 当社は通年の1株当り利益を3.60ドルから3.90ドルの後半と予測しています。

**最高経営責任者デビッド・ブレナンは次のように述べました：**「第2四半期の堅調な利益増は、継続的かつ好調な売上増と営業利益率の向上を反映しています。当社の現在のポートフォリオはSymbicort™の米国承認取得と米国でのセロクエル™除放製剤の承認申請により強化されました。当社のライセンスおよび事業開発への取り組みは、CATの買収や先日発表された米国コレステロール市場におけるアボット社との提携で証明されたように、引き続き推進されています。」

2006年7月27日 ロンドン発

ビジネスハイライト 別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）

## 第2四半期

第2四半期の売上高は恒常為替レートベースで10%、報告ベースで8%（為替損2%を含む）増加しました。米国以外の地域では8%増加しました。米国内の売上増加率は12%であり、全体の増加率をわずかに上回りました。

研究開発費は15%増加し、9億5,500万ドルに達しましたが、これにはGalida™ の残存費用が全額含まれており、これを差し引くと、実際の研究開発費の増加率は10%でした。販売・一般管理費は5%増の22億9,000万ドルでした。第2四半期の営業利益は30%増の21億3,100万ドルを計上しました。これには米国内の麻酔・鎮痛剤製品の売却益の一部を認識したことによる利益1億900万ドルが含まれており、実際の営業利益成長率（売却益を除く）は23%でした。当期の営業利益率は報告ベースで前年度同期28.0%に対して32.2%でした。1株当たり利益は2005年の0.75ドルから1.02ドルに41%上昇しました。

主力製品（Nexium™、セロクエル™、クレストール™、アリミデックス™ およびSymbicort™）の当期総売上高は21%増の32億9,900万ドルを記録しました。

Nexium™ の当期売上高は8%増加し、12億8,300万ドルを計上しました。米国以外の市場でのNexium™ の売上高は13%増加しました。米国市場での売上増加率は5%でしたが、マネージドケアの未払割戻金（主に2005年度第2四半期）の変化ならびに多少の在庫変動の影響を受けたため、実際の伸び率は14%と推定されます。価格の引き下げにより一部相殺されたものの、引き続き堅調な売上増加の傾向が認められました。

クレストール™ の第2四半期売上高は51%増の4億8,000万ドルに達しました。米国内の売上高は47%増でした。米国スタチン市場の総処方数に占めるクレストール™ のシェアは、7月14日終了週現在8.0%であり、本年度初めから1.7ポイント増加しました。他の市場でも売上高は58%増加しました。7月5日、アストラゼネカ社とアボット社は、混合型脂質代謝障害の総合的治療法の1つとして、クレストール™ とアボット社の次世代製剤TriCor®（ABT-335）の定用量配合剤を共同で開発し販売することを発表しました。

Symbicort™ は引き続き、喘息・COPD用配合剤の市場成長率を上回る売上増を示し、当期は3億800万ドルを計上しました（25%増）。7月21日、米国FDAは12歳以上の喘息患者の維持療法の治療薬としてSymbicort™ を承認しました。当社は2007年の中頃に米国での発売を予定しています。

アリミデックス™ は、閉経後早期乳癌の主要補助療法への使用が引き続き増加し、第2四半期の売上高は31%増の3億7,900万ドルでした。最近、アリミデックス™ の新しい適応症が一部の欧州市場（英国、ドイツ、オーストリア、イタリア、スペインおよびポルトガル）で承認されました。これらの国では現在、補助薬としてタモキシフェンを2、3年使用しているホルモン受容体陽性の閉経後早期乳癌の補助療法にも使用されています。この新規適応症の承認により、アリミデックス™ は主要補助療法と2、3年間のタモキシフェン治療後の両方に使用できる最初で唯一のアロマトラーゼ阻害剤となりました。

セロクエル™ は、米国（30%増）およびその他の市場（24%増）でも好調で、売上高は28%増の8億4,900万ドルを計上しました。7月17日、当社は、統合失調症の治療薬としてセロクエル™ の1日1回徐放（SR）製剤の承認申請を米国FDAに提出しました。EUでの申請は本年末迄に行う予定です。

## 上半期

上半期の売上高は恒常為替レートベースで11%、報告ベースで8%増加（為替損3%を含む）しました。米国内の売上は14%増、米国以外の市場は8%増でした。主力成長5製品の上半期の総売上高は、Nexium™（11%増）、セロクエル™（29%増）、クレストール™（48%増）、アリミデックス™（34%増）およびSymbicort™（24%増）の堅調な売上を反映して、62億9,400万ドルに達しました（23%増）。

売上高の2桁成長と継続的な厳しいコスト管理により、営業利益の実質増加率は28%を記録しました。事業の売却益を含めると、営業利益の伸び率は31%となり、上半期の営業利益率は（売上高の32.1%に）5.4ポイント改善しました。1株当たり利益は前年度1.38ドルから1.92ドルに41%増加しました。

## 今後の見通し

好調な売上と収益力の向上によって、当社は年間の財務目標の達成に向けて確実に前進しています。米国内の麻酔・鎮痛薬製品の売却に伴う一時利益、ならびにこれによる先送り利益の償却のほか、CATの完全統合とその無形資産の償却も年間の収益に含まれます。これらすべての要素を考慮に入れると、当社の1株当たり利益は目標額3.60～3.90ドルの後半になると予想されます。

この目標額には年末までの5カ月間に米国内で得られるToprol-XL™ の関連利益約24セントが含まれています。これはジェネリック企業が規制当局の最終的な承認を待たずに、「リスクのある状態」で発売に踏み切ったと仮定した数字です。この24セントの利益にはいかなる一時資産または必要な在庫調整も含まれません。

**注意：**当社の利益やビジネスの見通しに対する上記の予測的な記述はリスクや不確実要素をともなっており、実際の結果はこれらと大きく異なる可能性があります。たとえば、上訴の決着前にToprol-XL™ の後発競合製品が米国市場に導入される可能性もあり、米国におけるオメプラゾールの後発品の売上伸び率、既存製品の継続的成長（特に、クレストール™、Nexium™、セロクエル™、Symbicort™、アリミデックス™）、コストや経費の増加、利率の動き、為替レートの変動、税率などがリスクや不確実要素と考えられます。これらやその他のリスクや不確実要素については、2005年アニュアルレポートForm20 - Fを含む証券取引委員会への有価証券報告書をご覧ください。

## 売上高

別段の記載がない限り、伸び率はすべて恒常為替レート（CER）。

### 消化器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2006	2005		2006	2005	
Losec™ / Prilosec™ (オメプラール)	356	438	-17	700	865	-16
Nexium™	1,283	1,204	+8	2,472	2,259	+11
合計	1,654	1,661	+1	3,205	3,160	+3

- 第2四半期に米国PPI市場の総処方数は10%増加しました。この処方量の増加はオメプラゾール製剤（48%増）およびNexium™（20%増）の成長により牽引されました。他の主要競合製品の当期総処方数は全体で5%低下しました。
- 米国市場でのNexium™の売上高の伸び率は5%でしたが、マネージドケアの払戻金（主に2005年第2四半期）の差や在庫変動を調整すると、好調な売上が価格の引き下げによって一部相殺されたため、実際の売上成長率は約14%となりました。同じベースでの上半期の売上高は15%増となります（報告ベースでは9%）。
- 米国以外の市場におけるNexium™の売上高は第2四半期に13%増加しました。PPIの参照価格の大幅な切り下げによって、ドイツの売上は4%減少しましたが、欧州の総売上高は12%増でした。Nexium™のその他の市場における上半期の売上高は15%増でした。
- Prilosec™の米国での当期売上高は38%減少し、上半期では24%減でした。
- 米国外でのLosec™の売上高は上半期に14%減少しましたが、日本(オメプラール™)では11%増加しました。

### 循環器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2006	2005		2006	2005	
Seloken™ / Toprol-XL™ (セロケン)	478	435	+11	934	843	+12
クレストール™	480	317	+51	867	590	+48
Atacand™	276	254	+11	530	489	+12
Plendil™ (スプレンジール)	70	112	-38	142	205	-30
ゼストリル™	78	78	+3	153	165	-3
合計	1,540	1,370	+13	2,930	2,627	+14

- Toprol-XL™の米国内売上高は第2四半期に19%増加し、上半期では20%増加しました。米国市場の総処方数は12%増加したのに対して、米国遮断薬市場では8%の増加でした。
- 第2四半期中に当社は、小児高血圧の治療薬としてToprol-XL™の追加新薬承認申請を米国FDAに提出しました。
- 米国以外の市場におけるセロケン™の売上高は第2四半期に12%減少し、上半期では9%減少しました。
- クレストール™の当期売上高は、米国内の2億7,100万ドル（47%増）を含め、全体で4億8,000万ドルを計上しました（51%増）。米国スタチン市場の総処方数は上半期に2桁の成長を遂げました。米国スタチン市場の総処方数に占めるクレストール™のシェアは7月14日終了週で8.0%であり、2005年12月から6.3%増加しました。

- 上半期の Crestor™ の米国内売上高は45%増加し、4億9,100万ドルに達しました。
- 米国以外での Crestor™ の第2四半期売上高は、引き続き欧州（58%増）およびカナダ（25%増）好業績に支えられ、2億900万ドル（58%増）でした。Crestor™ のスタチン市場における販売量ベースのシェアは現在、カナダ15.3%、オランダ10.9%、イタリア17.4%、フランス9.6%です。
- Crestor™ の米国以外での上半期売上高は52%増加し、3億7,600万ドルに達しました。
- 日本で Crestor™ の製造販売後調査の中間報告を行いました。2006年下半期にはいくらかの売上（報告ベース）が見込まれます。
- 7月5日、アストラゼネカ社とアボット社は、混合型脂質代謝障害の総合的治療法の1つとして、Crestor™ とアボット社の次世代製品 TriCor®（ABT-335）の定用量配合剤を共同で開発し、販売することを発表しました。
- Atacand™ の米国での売上高は第2四半期に3%減少しましたが、上半期では変化がありませんでした。
- 米国以外の市場における Atacand™ の売上高は第2四半期および上半期ともに16%増でした。
- スプレンジール™ の上半期売上高は、米国市場への競合後発品の参入の影響を受けて全体で30%減少し、米国市場では82%減少しました。

## 呼吸器

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2006	2005		2006	2005	
パルミコート™	301	276	+10	629	590	+9
Symbicort™	308	255	+25	585	502	+24
Rhinocort™	102	112	-9	187	204	-8
アコレート™	21	13	+62	39	41	-5
Oxis™	22	23	-4	44	46	-
合計	791	718	+12	1,556	1,464	+9

- Symbicort™ の当期売上高は、シェア拡大と喘息用およびCOPD用の配合剤市場の成長を受けて、25%増加し、3億800万ドルでした。上半期売上高は24%増加しました。
- 7月21日、米国FDAはSymbicort™ を12歳以上の喘息患者の維持療法の治療薬として承認しました。当社は2007年中頃に米国での発売を予定しています。
- パルミコート™ の上半期売上高は9%増加しました。米国でパルミコート™ 吸入液の18%増が報告されました。総処方数に変化がなかったため、価格変更およびマネージドケアの払戻金の差がプラスに作用しました。米国以外でのパルミコート™ の上半期売上高は4%減少しました。
- Rhinocort™ Aquaの米国での上半期売上高は11%減少し、総処方数は16%減少しました。

## オンコロジー

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2006	2005		2006	2005	
アリミデックス™	379	297	+31	714	553	+34
カンデックス™	306	287	+11	580	564	+8
ゾラデックス™	250	263	-2	481	494	+2
イレッサ™	62	59	+8	112	140	-16
Faslodex™	47	35	+37	91	64	+45
ノルバデックス™	24	32	-22	45	60	-20
合計	1,071	976	+13	2,029	1,881	+13

- アリミデックス™ は第2四半期も引き続き堅調な売上を示し、31%増の3億7,900万ドルを計上しました。米国内の売上高は第2四半期28%増、上半期で27%増でした。米国での上半期総処方数は26%増加し、6月の市場シェア率は2005年12月から2ポイント増の36.7%でした。
- 米国以外でのアリミデックス™ の売上高は第2四半期32%増、上半期に38%増を記録しました。上半期の成長率は欧州で43%、アジア太平洋地域で25%でした。
- 7月12日、当社は、アリミデックス™ の新しい適応症が一部の欧州市場（英国、ドイツ、オーストリア、イタリア、スペインおよびポルトガル）で承認されたことを発表しました。これらの国では現在、補助薬としてタモキシフェンを2、3年使用しているホルモン受容体陽性の閉経後早期乳癌女性の補助療法にも使用されています。この新規適応症の承認により、アリミデックス™ は主要補助療法と2、3年間のタモキシフェン治療後の両方に使用できる最初で唯一のアロマターゼ阻害剤となりました。
- カソデックス™ の米国での上半期売上高は、販売量が若干増加（3%）したほか、価格変更、在庫変動などの因子がプラスに作用して、19%増の1億4,000万ドルに達しました。
- カソデックス™ は米国以外の市場でも上半期に売上は6%増の4億4,000万ドルでした。
- ゾラデックス™ の上半期売上高は米国で15%減少しましたが、他市場では4%増加したため、全体で2%の増加となりました。
- イレッサ™ 第2四半期売上高は、日本および中国での伸びにより8%増加し、6,200万ドルでした。2005年上半期に米国で3,700万ドルの売上を記録しており、本年上半期の売上は16%減となりました。
- Faslodex™ は欧州でほぼ2倍、米国で16%の伸びを示し、上半期の売上は45%増でした。（売上高9,100万ドル）。

## ニューロサイエンス

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2006	2005		2006	2005	
セロクエル™	849	667	+28	1,656	1,300	+29
ゾーミッグ™	103	104	+1	196	172	+17
合計	1,178	1,022	+16	2,314	1,974	+19

- セロクエル™ は米国（30%増）、欧州（20%増）およびアジア太平洋地域（30%増）での好調な売上を反映し、第2四半期売上高は28%増の8億4,900万ドルでした。
- 米国市場では、販売量増加（総処方数が現在までの1年間に13%増加）や有利な価格変更のほか、2005年第2四半期の在庫減により、売上高は30%増加しました。新規処方に占めるセロクエル™ の市場シェアは2005年12月の29.8%から本年6月には30.5%に上昇しました。
- 米国でのセロクエル™ の上半期売上高は12億1,000万ドルでした（30%増）。
- 米国以外の市場では第2四半期24%増、上半期27%増を記録し、シェアは引き続き拡大しています。
- 7月18日、当社は、統合失調症の治療薬としてセロクエル™ の1日1回徐放（SR）製剤の承認申請を米国FDAに提出したことを発表しました。欧州での申請は本年末迄に行う予定です。
- ゾーミッグ™ の米国での売上比較は、2005年4月1日に米国における本製品ビジネスの全責任をアストラゼネカが回復したことが反映されています。前年同期と同じく、本年第2四半期売上高は4,600万ドルでした。前年第1四半期にMedpointeへの売上が低調であったことを受け、本年上半期は前年比56%増となりました。
- 米国以外の市場では第2四半期に1%増加しましたが、上半期では1%減少しました。

## 地域別売上

	第2四半期		CER %	上半期		CER %
	2006	2005		2006	2005	
米 国	3,077	2,743	+12	5,959	5,243	+14
欧 州	2,255	2,197	+7	4,427	4,362	+8
日 本	387	399	+5	691	736	+4
その他	906	793	+12	1,728	1,534	+10

- 米国での第2四半期の売上はセロクエル™、クレストール™ およびToprol-XL™、Nexium™ およびアリミデックス™ の堅調な伸びに支えられました。
- 欧州での第2四半期の売上増はSymbicort™（24%増）、クレストール™（58%増）、アリミデックス™（37%増）、Nexium™（ドイツでの販売不振にもかかわらず12%増）およびセロクエル™（20%増）に牽引されました。
- 日本では4月の薬価引き下げ前に第1四半期の卸在庫レベルが低下したため、第2四半期には販売量が回復し、売上高が5%増加しました。オメプラール™（14%増）およびオンコロジー製品（7%増）が好調でした。
- 中国ではイレッサ™ およびパルミコート™ に牽引され、第2四半期売上高は12%増加しました。

## 営業レビュー

別段の記載がない限り、伸び率は恒常為替レート（CER）

### 第2四半期

報告ベースで売上高は8%、営業利益は24%増加しました。恒常為替レートベースでは売上高は10%、営業利益は30%増加しました。

当期の為替変動により売上高が2%、営業利益が6%減少し、1株当たり利益は3セント減少しました。前年同期に比べるとほとんどの通貨に対してわずかなドル高傾向（ユーロ0.2%、日本円6.5%、スウェーデンクローナ1.7%、英ポンド1.6%）がみられましたが、当期の為替変動が決済に与えた影響により、営業利益に対する影響が誇張されました。この結果、通常のコストベースのヘッジ作用が発生せず、売上高よりも利益に大きな影響が出ました。

米国での売上高の実質成長率は、マネージドケア市場の利益および在庫変動などの因子を調整すると報告ベースの12%をわずかに上回ります。米国以外の売上高は8%増加しました。

営業利益率は報告ベースで28.0%から32.2%に4.2ポイント上昇しました。為替損により0.7ポイント減少し、米国麻酔・鎮痛薬製品の売却益により1.7ポイント上昇したため、当期の実質改善率は3.2ポイントでした。

売上総利益率は0.4ポイント増の79.0%でした。為替損により前年同期から1.1ポイント減少し、メルク社への支払い（売上高の4.6%）が前年度より0.4ポイント減少しましたが、これらを控除すると、主に製品構成および継続的な業務の効率化により、当期の実質改善率は1.1ポイントでした。

第2四半期の研究開発費は早期のポートフォリオおよびライフサイクルマネジメントプログラムへの投資拡大により、前年同期比15%増の9億5,500万ドルでした。これにはGalida™ 開発中止による3,800万ドルの費用（進行中の臨床研究をすべて終了するのに必要な予想費用）を含みます。この費用を除外すると、実質研究開発費は約10%増でした。2005年第2四半期に比べて、研究開発費により営業利益率は0.6ポイント減少しました。販売・一般管理費は、事業全体での主力製品への継続的投資により、5%増の22億9,000万ドルを計上しました。この販売・一般管理費により営業利益率は1.7ポイント上昇しました。

権利使用料が増加したほか、米国麻酔・鎮痛薬製品のAbraxis BioScience社への売却益として1億900万ドルが計上されたために営業外収益が増加し、営業利益率が2.3ポイント上昇しました（下記の投資を参照）。

金融商品に関する公正価格調整として第2四半期に500万ドルを計上しました。300万ドルは売上原価の減少として、300万ドルは研究開発費の増加として、また500万ドルは支払い利息の増加として計上しました。

### 上半期

報告ベースで売上高は8%、営業利益は30%増加しました。恒常為替レートベースでは売上高は11%、営業利益は31%増加しました。

為替変動により売上高が3%、営業利益が2%減少しました。6ヶ月累計で為替損によりEPSは2セント減少しました。今後も現在の為替が維持されるとすると、下半期には大筋でEPSに対する影響はほとんどないと予想されます。

米国での売上高の実質成長率は、報告ベースの6カ月間成長率の14%にほぼ等しいものです。米国以外の市場の売上高は8%増加しました。

営業利益率は報告ベースで26.7%から32.1%に5.4ポイント上昇しました。為替の影響および売却益を控除すると、上半期の実質改善率は4.0ポイントでした。



売上総利益率は2.3ポイント増の79.4%でした。前年上半期にはMedpointe社とのゾーミック™ 米国販売契約の早期打ち切りに対する引当金を計上しました。これとともに、メルク社に対する支払い額の減少（売上の4.6%）および為替変動をすべて控除すると、当期の実質改善率は2.1ポイントでした。

研究開発費は主にポートフォリオ全体での投資拡大により12%（Galida関連費用を除くと9%）増加し、18億1,600万ドルを計上しました。2005年上半期と比較すると、研究開発費は営業利益率を0.1ポイント低下させました。販売・一般管理費は、主に主力製品の投資拡大により前年比7%増の44億500万ドルとなりました。販売・一般管理費により上半期の営業利益率は1.1ポイント上昇しました。

金融商品に関する公正価格調整として上半期に400万ドルを計上しました。500万ドルは売上原価の減少として、100万ドルは支払い利息の増加として計上しました。

### Toprol-XL™

この6カ月間にToprol-XL™ の売上高は7億3,200万ドル、EPSは26セントでした。ジェネリック企業が競合製品を発売するかどうか、発売するとしてその時期、どの用量で製品を販売するのかは確実ではありませんが、当社はそれまでの間、Toprol-XL™ から得られる価値を最大限に生かすことを決意しました。これらの不確実性と影響を考慮すると、2006年、2007年および2008年の業績には様々なシナリオが予想されるため、当社は現在の業績からToprol-XL™ を除外することによって、将来の業績について最善の判断ができると考えています。このため、今期および前期の業績からToprol-XL™ を除外すると、売上高の伸び率は第2四半期9%、上半期10%であり、EPSは両会計期とも41%の増加となります。

現在の見通しにもとづき、「リスクのある」状態で後発競合製品が発売されないと仮定すると、本年の残る5カ月間にToprol-XL™ が寄与するEPSの額は24セントと予想されます。

### 利息・配当収入

正味利息・配当収入は上半期1億4,600万ドル（2005年6,400万ドル）、第2四半期7,800万ドル（2005年3,100万ドル）でした。前年同期からの増加は、主に平均投資残高と利回りの上昇によります。計上金額にはIAS（国際会計基準）19号「従業員給付」に規定の従業員給付基金の資産と負債による利息収入を上半期で2,400万ドル（2005年1,100万ドル）、第2四半期で1,300万ドル（2005年600万ドル）を含みます。

### 税金

本年上半期の実効税率は前年同期の29.9%に対して28.9%でした。2005年の年間税率は29.1%でした。2006年の年間税率も29%程度と予想されます。

### キャッシュフロー

本年上半期のフリーキャッシュフロー\*は2005年上半期の28億5,500万ドルに対して29億2,200万ドルでした。

株式買戻し額16億2,700万ドルおよび配当金14億4,200万ドルからなる株主への利益還元額30億6,900万ドルのほか、第1四半期のKuDOS Pharmaceuticals買収による正味キャッシュフロー2億1,300万ドルは、株式発行による収益7億4,600万ドル、Cambridge Antibody Technology Group 社への短期投資額1億5,700万ドルならびに他の現金以外の変動2,000万ドルによって相殺され、正味資金は全体で5億6,300万ドルの増加となりました。アストラゼネカ英国法人からCambridge Antibody Technology Group 社 へのオファーは6月22日に無条件であることが宣言されました。6月30日現在、このオファーに関連する株式の95%以上に関して当社は合法的な受諾を取得あるいは受理しました。この受諾に関する決済の総額は8億5,800万ドル（4億6,300万ポンド）であり、7月に発生します。当社は現在、総額4,300万ドル（2,300万ポンド）で残る株式の強制取得を行っています。

上半期の営業活動によるキャッシュフローは、前年同期から2億6,700万ドル増加して34億2,100万ドルでした。税引き前利益の10億1,800万ドルの増加は、主に販売量の伸びと支払い税の増加1億9,700万ドルによるものであり、運転資金の需要の増加4億8,300万ドルによって相殺されました。

投資活動による正味現金支出は前年同期の4億7,700万ドルに対して本年上半期は1,100万ドルにとどまりました。

この減少の原因は、Abraxis BioSciences社、Protherics社およびAtheroGenics社との業務提携に伴って3億3,100万ドルの費用が発生したほか、KuDOS Pharmaceuticalsの買収費用として2億300万ドルを拠出したことによります。

\* - 株式発行および株主への利益還元；短期投資額、定期預金および短期借入金の変動；ならびに買収前のキャッシュフロー

## 投資

本年1月、当社はDNA修復の阻害に焦点をあてて癌治療薬の発見と開発に取り組む英国のバイオテクノロジー企業KuDOS Pharmaceuticals社を買収しました。この買収によって、当社は広く認知されている専門家グループと科学技術の基盤を獲得することができ、当社の重要な治療領域のひとつであるオンコロジー領域における既存の能力を補強することができます。買収額2億1,000万ドルの主な内訳は、無形資産2億8,500万ドル、営業権1,200万ドル、滞納税8,500万ドルであり、現金で決済しました。

本年4月、当社は、7月1日より米国で癌治療薬ABRAXANE®を5.5年の期間共同プロモーションするほか、当社の米国麻酔・鎮痛剤製品を売却することでAbraxis BioSciences社と合意したことを発表しました。ABRAXANE®の共同プロモーションによって、当社は重要な米国の化学療法薬市場に参入し、同時に米国での癌治療薬の営業権を補強し、拡大することができます。ABRAXANE®の共同プロモーションの権利に関し、当社はAbraxis BioSciences社に2億ドルを支払い、貸借対照表に無形資産として計上しました。共同プロモーションの完了後2年間を含む契約期間（7.5年）で償却する予定です。6月28日に手続きが終了した米国麻酔・鎮痛剤製品の売却により、2億3,500万ドルの利益が得られ、このうち1億900万ドルは第2四半期に計上しました。残る1億2,600万ドルは5年間の契約期間中に計上する予定です。

本年5月、当社は、アストラゼネカ英国法人にCambridge Antibody Technology Group社の残る株式を取得させる意向であることを発表しました。6月22日、当社はCambridge Antibody Technology Group社の全株式を取得するオファーが無条件と宣言されたことを発表しました。すべての直接支出を含む取得費用は7月に決済しましたが、Cambridge Antibody Technology Group社はオファーの無条件が宣言された日から整理統合されています。同社の全普通株を現金で取得しました。当社は無形資産および営業権約13億ドル、開発中の代表的製品、発売後製品のライセンス収入ならびにCambridge Antibody Technology Groups社がモノクロナル抗体とそのライブラリの開発に利用した専門技術のほか、滞納税3億9,000万ドルおよび他の正味資産3億ドルを含む総額約12億ドルを決済しました。

本年7月、当社は、クレストール™とアボット社製次世代薬TriCor®（ABT-335）の配合剤に関する共同開発・共同販売においてアボット社と提携することを発表しました。

## 配当

取締役会は2006年8月11日現在登録しているすべての株主に対して、2006年9月18日に支払われる第1回中間配当金を29%引き上げ、0.49ドル（26.6ペンス、3.60 SEK）にすることを勧告しました。

## 株の買い戻しプログラム

第2四半期中に総額10億6,300万ドルを投じて1,950万株を買い戻し、償却しました。これにより、本年上半期の買い戻し株数は3,110万株、買い戻し費用は総額16億2,700万ドルになりました。また上半期に総額7億4,600万ドルでの株式選択権の行使を考慮し、1,820万株を発行しました。

2006年6月30日現在の発行済み株式総数は15億6,800万株でした。

この株式買い戻しプログラムにより、将来の利息収入の推定額から上半期のEPSは3セント増加したことになります。

未だ実行されたことはありませんが、当社は業績発表に先立つクローズ期間中にも株式買い戻しプログラムを継続するため、銀行に取り消しできない指示を与える株主の既得権を自由に行使できるようにしています。こうした取引が発生すれば、適宜発表する予定です。

## 最新の研究開発パイプライン

---

6月8日に開催されたビジネスレビューミーティングに合わせて研究開発パイプラインの表を更新しました。本表のコピーは当社のウェブサイト[www.astrazeneca.com](http://www.astrazeneca.com)の投資家向け情報のページに掲載しています。

更新後に発生したパイプラインへの変更は以下の通りです。

- CATの買収が完了し、パイプラインに以下の化合物が追加されました；CAT-3888（有毛細胞白血病の第II相試験）；CAT-354（喘息の第I相試験）ならびに2種の前臨床化合物CAT-8015（血液癌）およびCAT-5001（固形癌）
- アボット社との提携により、当社は米国市場で販売する混合型脂質代謝障害の治療薬として、クレストール™ とアボット社の次世代製剤TriCor®（ABT-335）の定用量配合剤を共同開発しています。これと並行して、すでに市販されているアボット社のフィブラート系薬TriCor®と当社のクレストール™ の配合剤についても検討する予定です。
- 心房細動治療薬AZD7009の静脈注射用製剤の開発を中止しました。
- 統合失調症を適応症とするセロクエルSR™ の承認申請を米国規制当局に提出しました。EUでの申請は本年末までに行う予定です。
- 7月21日、米国FDAはSymbicort™ を12歳以上の喘息患者の維持療法の治療薬として承認しました。

## カレンダー

---

2006年10月26日	2006年第3四半期・9カ月累計業績発表
2007年2月1日	2006年第4四半期・通年業績発表

最高経営責任者  
デビッド・ブレナン